

【千葉テレビ放送賞】

にしむら かな
西村 香菜

最愛の娘へ

ねえ、なっちゃん。

あの日、お医者さんに「かなり厳しい状況ですが、延命措置はしますか。」って聞かれて、お母さん思ったの。

もう、頑張らなくていい。充分だよ。生まれてからずっと病気と戦うあなたを見てきたから、もっと頑張れって言えなかった。

だから、「もういいです。」って答えた。

そして、もう泣かないあなたを大事に大事に抱いて帰った。

今までは苦しいことばかりでいつも泣いていたもんね。

それなのに、機械のせいで満足に抱っこもしてあげられなくてごめんね。

やっと解放されたあなたは、本当に可愛い私の赤ちゃんだった。

やっと私の腕の中に帰ってきた。その時は本当に抱っこして一緒にいるだけで幸せだった。

本当は、悲しむ場面なんだろうけど、極限まで戦ったから後悔なんてなかった。

その時はね。

でもね、それからしばらくして、それで良かったのかなって毎日思ってる。

本当は私があなたの病気から、逃げたかっただけなんじゃないかって。

つらそうな娘を見ていられないだけだったんじゃないかって。

自分の弱さがあなたの望みの芽を摘み取ってしまったんじゃないかって。

毎日毎日、自問自答しています。

正解なんてないし、今さら後悔したって遅いのにな。

お母さんは多分これからも一生悩み続けると思います。

これで良かったのか、天国で会ったら答え合わせしよう。

(千葉県 / 31歳 / 女性 / 主婦)

生後半年で亡くなり、会話をすることができなかったので、せめて手紙で私の想いを伝えられればと思いました。